

超撥水風呂敷 世界巡回へ

「新・現代日本のデザイン100選」に



「新・現代日本のデザイン100選」に選定された朝倉染布の超撥水風呂敷

朝倉染布「海外販売のきっかけに」

染色整理業の朝倉染布(桐生市浜松町一丁目、朝倉剛太郎社長)の超撥水(はっすい)風呂敷「ながれ」が国際交流基金の「新・現代日本のデザイン100選」に選ばれた。最

新の日本のデザインの傾向や特色、文化を紹介するために選抜したもので、米国を皮切りに世界中を巡ることになっている。「現代日本のデザイン100選」は200

4年にスタート。世界各地で実物を中心に展示を行ってきたが、10年の節目を機に、2010年以降に生み出されたものを中心に選定し直した。「インテリア」「食

卓・調理」「乗り物など10分類を紹介する。朝倉染布の「ながれ」は「身に着けるもの」として取り上げられた。英文のカタログに

は「雨の日もぬらすことなくものを運べ、端を結び合わせるとバケツのように10リットルを運ぶこともできる」と紹介されている。大型のものを除き、現物展示が原則。6月下旬にロサンゼルスで開幕し、以降はカナダ、南米を巡る予定。5〜10年をめどに世界各国を巡回する。

朝倉染布は中国やタイの展示会に出展するなど国外への拡販にちようと着手し始めたところ。久保村健吉常務は「海外でも販売したい希望があり、いきいきかけになる」と喜ぶ。「風呂敷自体の伝統の力や汎用(はんよう)性に撥水の技術が加

わったことで、用途がものすごく広がった。機能だけでなく意匠性にも力を入れてきた。

ニッチ(すき間)だが撥水ではトップブランドだと自負している。これからも市場を広げていきたい」と語っている。

選定委員の一人、川上典季子(シヤナリスト)は国際交流基金を通じて、「幅広い用途に対応でき、繰り返し使用できる風呂敷の歴史や特色を大切にしながらも、現代の素材を活用することでかつてない可能性(機能)を実現した。伝統と現代の技術の融合という点で、日本のデザインのものづくりの今後の可能性を示す好例」と選定理由を説明。「織物産地としての歴史を誇る桐生の地で、また染織の歴史を誇る企業で『ながれ』がつくられているということも素晴らしいことだと思います」とコメントを寄せた。